

## 「大気大循環と世界の天候」の内容変更について

「天気」編集委員会

「気候情報」の欄では毎月、大気大循環と世界の天候の概況を2か月遅れで掲載しています。この欄の原稿は気象庁長期予報課が「天気」編集委員会から依頼を受けて作成していますが、1996年3月から気象庁の計算機システムが更新されたことに伴い、この欄に掲載している天気図の体裁も本号から変更されました。

また、これまでは北半球 500 hPa 高度場の図だけを掲載していましたが、近年は熱帯も含めた全球的な大気循環が注目されていることや、気象庁の気候系監視に様々な大気物理量が導入されていることを考慮して、北半球 200 hPa の風と熱帯域 850 hPa の高度・風、熱帯域 200 hPa の速度ポテンシャルの3つの図を加えることとしました。

北半球 500 hPa 高度場は中高緯度の対流圏中層であることから、対流圏の循環の平均的な実況を表しています。北半球 200 hPa の風の図では異常天候と直接的に関連する亜熱帯ジェット的位置などを見ることができます。

熱帯域 850 hPa の風では赤道域の下層風の実況を知ることができます。200 hPaの速度ポテンシャルは大規模な対流活動の中心を監視するための図で、図中

「D」で示された発散域の中心が、大規模対流域の中心に対応しています。これら熱帯域の図は ENSO やモンスーンの変動の監視に用いられています。

世界の異常天候の項では、月平均気温と月降水量に見られた主な異常天候について解説しています。この項については、これまでと大きな変更はありません。

長期予報課では、異常高温・低温は標準偏差の2倍をもって判断し、降水量は各国から通報される地上月気候値気象電報に含まれる降水5分位値により判断しています。降水5分位値とは統計期間（通常30年）の各年の降水量を大小で5つの群に分け、当月の降水量がどの群に入るか1～5の数字で通報する。0または6は総計期間のどの値よりも少ないまたは多い場合で、0の場合を異常少雨、6の場合を異常多雨と判断しています。

大気大循環、世界の異常天候の内容については気象庁が毎月発行しています「気候系監視報告」を参照するか、長期予報課（TEL：03-3212-8341、内線3157）まで照会してください。

（「気候情報」担当 磯部英彦）